

小婦連宵上絹機
大耆催稅急於飛

耆催稅急於飛
今年幸甚蚕桑熟

留得黃絲織夏衣

烹魚急急火
夏衣

〔訛文〕
小婦連宵上絹機、大耆催稅急於飛。
今年幸甚蚕桑熟、留得黃絲織夏衣。

「落ち穂拾い記」(55)

范成大『田園雜興詩帖』(上)

図版① 「田園雜興詩帖」(修理前)



図版② 「贈佛照禪師詩碑」(部分)



時間のある時には、馴染みの店以外に友達等の紹介の古書店などに一人で足をはこぶことがある。裏通りの雑居ビルの2階などにある古書店でのことである。数回通ううちに主人と雑談をしながら、店の書物を見ていた時に、入口近くの床に、二冊のやや厚みのある折帖を紐で縛りそのまま放置されているのを見つけた。これを店主に問うたところ拓本の折帖で、虫食いがあり、状態の悪い本だと。気になり見せていただいた。これを広げて見た人は、どなたもこの保存の悪い本に興味を示されないのでよと。確かに虫損、カビ等の汚れ、埃は、ひどいものであった。行書帖で激しい虫損で失われた文字もあるが、どうにか文字を確認できるところもあり、後半はやや文字がよく見えるところがあった。明清の書ではないよう感じた。保存状態は悪いが、その書には、なんとなく魅力を感じた。その後しばらくして、修理できなくても、行書帖を写真に撮り、パソコンで活用できないかと考えて、購入しようと決めた。価格を確認したところお好きならお持ちくださいとのこと。しかし、それほど馴染みの店でないので、値段をつけてくださいとお願ひし、数千円で譲り受けた。持ち帰り、何とかデジカメで全体を写真にとり、パソコンに取り込み、あれこれ調べた。今回紹介するのは、20数年前に入手したその酷い虫損のある宋の范成大(1126~1193、南宋の政治家・詩人であり、字は至能、石湖居士と号した。南宋四大家の一人。)の行書『田園雜興詩帖』である(図版①)。宋代の書として、北宋時代の蔡襄、蘇軾、黄庭堅、米芾らは多く取り上げられているが、南宋の范成大に言及する人は、少ない。また范成大の書は、稀である。日本では宮内厅所蔵の孤本の范成大の『贈佛照禪師詩碑』(拓本)の行書碑の名品が伝来するのみである(図版②)。この『田園雜興詩帖』は、范成大の代表作であり、范成大の自書を刻帖にし、全60首を収録する。実に伸びやかな味わい深い書である。主図版には、夏日田園雜興十二絶の一首を示した。この虫損の帖は、後に北京の専門家に委託して修理した。

伊藤滋(書斎名・木鶴室)

書のひろば

理事長 下谷洋子

後藤繁雄(大峰)
千葉敏勝(蒼玄)
新執行役員を、今後ともよろしくお願ひします。
理事・評議員を退任された3名は左記の役職に選任されました。

財団参事 石井明子、小浜大明、
生田寛治(翠龍)

令和6年度公益財団法人書道芸術院 評議員会理事改選 新体制による 理事会開催 新常務理事体制発足

6月8日定例評議員会が文具共和国会館にて開催され、令和5年度事業報告及び会計決算が原案通り承認可決されたのに引き続き、任期満了による財団理事監事の改選が行われました。

今回退任する理事は左記の2名。

石井明子、小浜大明

以上は定年による退任、他は全て再任となりました。

新たに理事に選任された方2名。

平川峰子、高田俊作(幽玄)

監事1名の補充選任

西川圭一(翠嵐)

評議員4名補充

岩垣 純(若翠)、小島孝予、
倉林智子(紅瑠)、柳橋幸枝(香仙)

以上により、理事は前期同様17名体制は変わらず、補充選任評議員はそれぞれ来年までの残任期間となります。

さらに、6月23日開催の新理事会にて、財団の新体制が理事互選により決定し発足しました。

理事長 下谷洋子

・常務理事 小竹康夫(石雲)

講習会内容は連盟会報(年末頃発行)にて報告される予定です。

一般財団法人毎日書道会 令和6年度第2回理事会

第78回書道芸術院展運営委員会 実行委員会開催

6月23日新理事会に引き続き、第78回書道芸術院展運営委員会(理事・監事で組織)が開催され、第78回展運営大綱を決定し、特別賞選考委員、当番審査員、事務局委員など主要人事も決定しました。さらに、第78回書道芸術院展、第76回全国学生書道展各部部長による実行委員会が開催され、各部副部長、委員など組織及び実行内容などが検討されました。(詳細は後日発表)

1. 毎日書道会役員選任・委嘱の報告
議事
2. 理事及び専務理事互選の件
3. 令和6年毎日書道顕彰1団体1氏
に則る件
4. 令和6年度事業報告の件

6月10日(月)、如水会館にて毎日書道会本年度第2回理事会が開催されました。

回書道芸術院展運営委員会(理事・監事で組織)が開催され、第78回展運営大綱を決定し、特別賞選考委員、当番審査員、事務局委員など主要人事も決定しました。さらに、第78回書道芸術院展、第76回全国学生書道展各部部長による実行委員会が開催され、各部副部長、委員など組織及び実行内容などが検討されました。(詳細は後日発表)

6月6日(木)上野精養軒にて、令和6年度の総会が開催されました。

議題・令和5年度事業報告ならびに決算の承認

中原志軒先生の弔辞

香川倫子先生の「お別れの会」開催

啓蒙部門 扶桑印社(代表・遠藤彌)
俊英賞 桟敷東煌(かな部審査会員)
(50歳以下)

本院の副会長を経て、公財書道芸術院顧問、毎日書道会名誉会員もされた香川倫子先生は、去る2月9日にご逝去了されました。本院へのご功績と感謝を込めたお別れの会が、6月15日上野精養軒で開催されました。奎星会会长中原志軒先生を始め、毎日書道会、毎日新聞社など、関わりのありました来賓20名ほどとご遺族・本院の役員94名によってセレモニーを行い、その後一般の方々の献花となりました。馨香会や事務局による実行委員会が、入念の準備をして臨み、会場には倫子先生の作品や愛用されていた筆墨硯などが陳列され、思い出の写真等もたくさん飾られて、ありし日の先生を偲んだ和やかな会となりました。財団役員ほか、お弟子さんによる「香川倫子先生を偲ぶ言葉集」も刊行されました。

会員の皆さんのご協力に感謝申します。



中原志軒先生の弔辞

公益財団法人 書道芸術院役員

(○は新任)

漢字書基礎基本講座(2)

種谷萬城

篆刻・刻字基礎基本講座(2)

後藤大峰

漢字書の学び方2

様々な書体に挑り、「和」字を書いてみました。書の上達とは、鑑賞

力、表現力、理論が向上することです。創作への学習は、第一に、真似

から始まります。先生の手本の真似や、古典の臨書です。様々な古典の

臨書や鑑賞により表現力、鑑賞力を身につけて下さい。第二が倣書です。

臨書した古典の特徴や技法を生かし別の語句を書くことは創作への足が

かりになります。古典の学習は、複数の古典を比較しながら習う方法も

お勧めです。共通点、相違点を認識して、幅広く多くの古典を涉獵し、

自分の表現に合った古典を見出してください。第三が創作です。身につい

た表現力と鑑賞力により、新たな表現を求めて無心で創作をしましょう。

書の勉強の喜びは創作です。古典の物真似に終わらず、用具用材も工夫

し、現代の感性を加味することが、現代書の創作には必要不可欠です。

しかし臨書が不足し、鑑賞力や表現力が不十分ですと、その人の未熟さ

や癖が出て、作品は俗っぽいものになってしまいます。



こころの書
QRコード

※関連動画YouTube『こころの書 上達への一步 臨書から倣書 そして創作へ』を公開しています。右のQRコードからアクセスできます。是非ご覧下さい。

前回は、篆刻の作品で主に使う篆書について、大まかではありました
が、その種類について述べさせて頂きました。

どの篆書体を使用するかは、作品を創る作者によって選択をして、創
作するのが、一般的です。

個人にて活動される方は別として師系、社中系などで類型的になるの
が通常なのではないでしょうか。

私自身のことで恐縮ですが、最初に篆刻を始めた際、指導頂いた師匠
が、「小篆」、「印篆」を元に作品を創る師匠でしたので、私は現在でも、
作品は「小篆」、「印篆」になってしまいます。

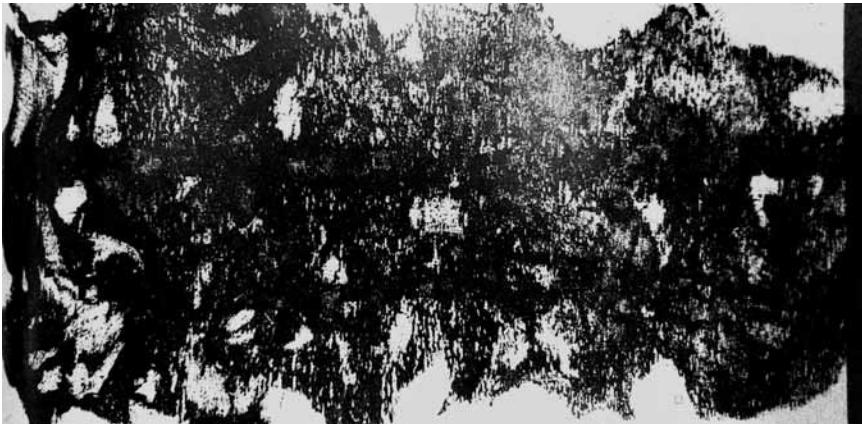
これは、こと、篆刻の分野に限らないのではないでしようか？

掲載の作品は、それを踏まえて創った筆者の作品です。
上の朱文作が「明則誠」、下の白文作が「天地秋」です。



書道芸術院

令和の群像 (2024)



第73回書道芸術院展「悠遠」

米倉 聲香 書

「臨書から創作へ〜前衛



米倉 聲香

はじめて筆を持ったのは5歳の時でした。保育所の帰りに母が勤めていた小学校の書道部の子供達と母の仕事の終わりを待ちながら書く（筆で遊ぶ）ことでした。昭和30年頃、鹿児島でのことです。小・中学校と故・川上南溟先生に教えていただき、「うまい」「うまい」と褒めてください、楽しく得意になつて書いたのを覚えています。お陰で南九州で数々の書道展や即席会での栄誉を受けることができました。

転機になったのは高校で上京することになりました。高校の3年間は川上先生の通信指導でなんとか続けていました。大学に入り、日本文学科で国語と書道の単位を取得するため汉字・かなと臨書学習に精を出す毎日でした。校外では多くの書道展に日参する日々でした。第21回毎日書道展との出会いが私を一変させました。これまでの書道観を大きく覆すものでした。「なんて自由で訴える力がすごいのだろう。黒と白の響き合いが研ぎ澄まされていて胸に突きささるようだ。」これが前衛書との出会いでした。小・中・高と上手と言われていた自分が恥ずかしくなりました。表現者として何かを変えなくては、と、もがく自分がそこにいました。

故・前田次郎先生に出会うことができたのは何と幸運なことでしよう。しかし、先生は途中。

前衛書の指導は一切なく、お酒を飲みながら古典の話をしたり臨書する姿を見せたりするだけ。実際に楽しそうに踊るように筆を紙にするべらせるのでした。そんなある日、「何でもいい、法帖を全臨しなさい。」とおっしゃいました。私はよくわからないまま、2年、3年生の2年間、「争座位稿」「樂毅論」を夢中で臨書しました。「樂毅論」の最後の文字を臨書し終えたのは1972年1月2日、明け方でした。その年の書初めとなりました。朝焼けを迎ながら、ふっと肩の力がぬけ、何かが背中を押すような感覚がしました。先生が、力をぬいて自分の気持ちをぶつけなさい、と言ってくれたのでしょうか。それから前衛書、近代詩文書に気負うことなく取り組むことができたよう思います。漢字・かなが創作も臨書が大切なのだと思います。昭和42年の頃でした。

結婚して宮城に来て幸運にも故・大内魯邦先生を師と仰ぐことができました。魯邦先生も前田先生と同じく、お酒が好きで臨書する姿が楽しそうでした。

こうして私は、書作の楽しみを、出会えた先生方から教えていただいたのだと思います。この30年余り高校の書道講師として生徒と一緒に臨書の大切さを伝え、書く喜び、楽しみを味わってきました。これからもともに前へ進んで行こうと思います。

令和6年度 新審査会員作品

石黒 和喜（前）・小閔 瑞華（漢）・半澤 香艸（漢）・小松 美恵（漢）



石黒 和喜
(富山)

「心月」

この度は、審査会員にご推挙頂き、誠にありがとうございます。

故・浜谷芳仙先生、そして津田海仙先生のご指導と書友の支えに深く感謝申しあげます。これからも古典を大切にし、自分らしい前衛書をめざし、精進してまいります。
(和喜)



半澤 香艸
(宮城)

「月影 窓紗に映ず」

柔らかな月光がカーテンに映る様子を軽やかに表現しました。

漢詩の自詠を師に勧められてから7年、花鳥風月に触れた感動を作詩し、墨で表現する楽しさを大事にしてきました。今後も古典の臨書第一に、先週の自分よりも上達できるよう、報恩感謝の心を忘れず書道に向き合ってまいります。
(香艸)



小松 美恵
(高知)

「軌」

この度は、審査会員に昇格、誠にありがとうございました。

ご指導くださった先生方、仲間の皆様に感謝申上げます。古典に学び、奥深い書の世界を感じながら、精進してまいりたいと存じます。ご指導のほど、お願い申上げます。
(美恵)



小閔 瑞華
(千葉)

「春風致和」

この度は、審査会員にご推薦いただき、誠にありがとうございます。辻元大雲先生はじめ諸先生方に、いつも温かなご指導や、たくさんの励ましのお言葉をください、心より感謝申し上げます。

今後も古典を学び、研鑽を重ねて参りたいと思います。
(瑞華)



小閔 瑞華
(千葉)

（次回は10月号に掲載する予定です。）

北関東総局・講師 西川翠嵐先生

令和6年5月19日(日) 前橋市・国指定重要文化財臨江閣・別館2階

報告者 岩上郁子

コロナの影響で書道芸術院単位認定講習会も原拓鑑賞会もできない状態でしたが、今回、北関東総局にて下合理事長をお迎えし、130名余りの参加で実施されました。

会場は前橋に明治43年、県の貴賓館として建てられた臨江閣の書院風の180畳の大広間でした。その会場に広げられた原拓は、この広い空間を得て大きく呼吸しているかのようでした。

鑑賞できた原拓本は、故・中山無硯先生(書道芸術院展漢字部審査会員)が長年かけて中国に行き購入・蒐集された大変貴重なものです。

拓本解説は北関東総局長の西川翠嵐先生がしてくださいました。用意された資料には、拓本鑑賞の注意点、拓本に関する用語、書道史年表、書体別の原拓名などの内容が書かれ解説を聞く上で大変役立ちました。「釋山刻石」に始まり、「五鳳二年刻石」「萊子侯刻石」とあまり知られていない原拓から「禮器碑」「西狭頌」「爨宝子碑」等、40点余りの原拓を、一つ取り出し広げ解説し、そして次の拓本を取り出

し広げ解説をする。また先生の解説は話題が豊富で、碑に関する歴史的背景や鑑る者のイメージが広がる話し方で、あつという間に2時間が過ぎ、会場いっぱいに原拓が並びました。特に最後に広げられた「顏氏家廟碑」四面の原拓は圧巻でした。

西川先生からの原拓鑑賞会のご案内の中で、「拓本を手近で鑑賞し、手本として習うのに便利な形にし直したアルバム風仕立ての剪装本は便利ですが、剪装本では原刻の本来の状態はわかりません。全拓本だけが原石の全体像を視ることができ、資料的価値は全拓本がとても大切なのです。」とありますたが、まさしく原拓を前にして納得の言葉でした。この貴重な体験を今後の書活動に生かしたいと思います。

終了後、皆さんから西川先生のお話を「内容が濃く、分かりやすく、楽しかった」と言う声が聞かれました。感謝いたします。



理事長あいさつおよび西川先生の熱のこもった解説と熱心な参加者

雁塔聖教序(褚遂良) ①

〈解説〉褚遂良(596~658年)、字は登善。虞世南の没後、魏徵の推挙により太宗皇帝の侍書となる。高宗の時、武則天立後に反対したため左遷され、都に戻ることなく現地で没した。唐の四大家のひとり。「雁塔聖教序」は、古都長安の慈恩寺の大雁塔の最下層南面入口にある『大唐三藏聖教之序』と『大

唐三藏聖教序記』の一碑を指す。特に前者を「序」、後者を「序記」として区別することもある。「序」は太宗の、「序記」は高宗の選文であり、三藏法師がインドから仏典を持ち帰り翻訳した業績を讃える内容である。本誌4~7月号の「落ち穂拾い記」も再読されたい。

(編集部)



※掲載図版95%に縮小

※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨(押印のみ可)

漢字研究部臨書課題 (半紙普通判・縦使用) 上記掲載部分より何文字臨書してもよい。

特別研究部臨書課題 (A. 大作の部—毎日展審査会員・会員サイズ以内、2×6尺・全紙も可)
 (B. 小品の部—半切以上半切以内、全紙以内も可(A・B縦横自由)) 当該古典の上記掲載部分以外も可。

※特別研究部の課題の範囲に「序記」(高宗選文のほう)は含まれませんのでご注意下さい。

高野切第三種
(伝紀貫之筆)

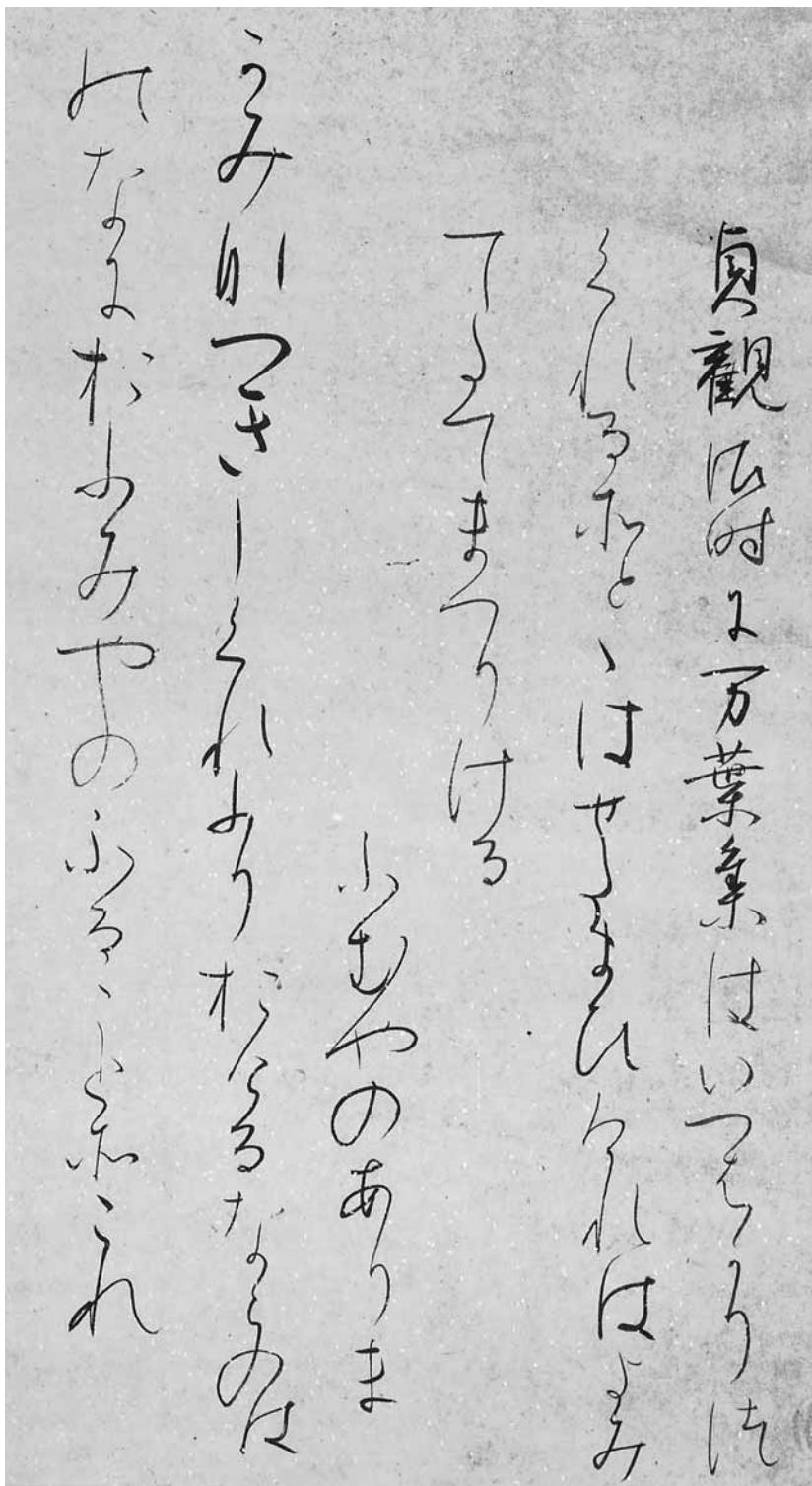
①

〈解説〉前回までの「第一種」に統いて「第三種」の鑑賞に移る。両者に共通する点と細かい部分における相違点を把握できると、かなの学習も大いに進むことになる。

一見してどちらも高雅な気品と優美な雰囲気を感じさせるが、これは一定のリズムで直筆を基本に運筆されているためであろう。ただし「第三種」

のほうが筆が立っていると推測される。そして、若干、スピードが速いようだ。線質のシャープさと快い緊張感を観察することができる。ただ、墨継ぎの美しさについては「第一種」に重配が挙がる。今日は、漢字とかなの調和に留意して下さい。

(編集部)



(個人蔵)

※掲載図版・85%に縮小

◎原寸図版は、総ページ数が増えたため、今日は掲載しません。ご了承下さい。

かな研究部臨書課題

(半紙普通判(料紙可)・縦長に使用)別紙を裁断して貼付も可。半纏紙は半紙サイズに切って使用のこと。上記の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。(全臨も可)

特別研究部臨書課題

- A. 大作の部=毎日展審会員・会員サイズ以内、 2×6 尺・全紙も可
 B. 小品の部=半切 $\frac{1}{3}$ 以上、半切以内(縦横自由)、全紙 $\frac{1}{3}$ 以内も可
 <いずれも上記の掲載以外も可。>

※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨(押印のみ可)

※古筆は原寸(以上も可)で臨書しましょう。

坂本素雪
(礼記)

禮尚往來
(れい おうらい とうとう)

礼には礼をもって尽くす。礼儀は一方的でなく双方で交換することが大切だ。

四字熟語から、生活の中に溶け込んでいる語句としてこの言葉を選んだ。普段は羊毛使用が多いが、今回少し硬めの狼毛筆を使用。何年前の筆か分からぬが大分擦り切れていた。日頃より、品格のある美しい字を目指しているのだが…。

「禮」偏と旁の間隔を広く取り空間美を求める。バランスに

注意し旁を大きくしすぎない。

「尚」重心を下にする。

「往」行人偏を流れるような線質にして旁の「主」の方を強くする。

「來」下部に画数の少ない字が並んだので、少し太めにして強い運筆で纏める。

禮尚往來 よみ(礼は往来を尚ぶ)

書体=自由



習い方解説 (1)

稻垣小燕

萬代不易
(六朝)

いつまでも、変わらない。

褚遂良の代表作の一つに「孟法師碑」があります。整齊な字形で温か味が感じられ深みがあり、線はきめ細やかで、しなやかであります。加えて品格の高さを感じます。

技法的には、例えば横線で言えば始筆の角度や送筆での筆圧で變化をつけたり、線の途中で吊り上げたりすることができます。転折は、まるみをもたせた厚みのある線で複雑に表現されています。

「孟法師碑」はあらゆる筆法が含まれ書の基本とされていて、書を志す者にとって必ず習得しなければならないものの一つです。その意味で萬代不易の書と言えるのではないでしょうか。

今回は「孟法師碑」の字形を参考に初心者にもわかりやすく書いてみました。清書の前に原本を臨書してみるとおすすめします。

萬代不易 よみ(萬代不易)

小燕書

書体=楷書



習い方解説 (1)

下谷洋子

今年より花咲き初むる橋の
いかで昔の香にてほほふらひだり
(藤原家隆「新古今集」)

今年から花の咲きはじめる橋の花
が、どうして昔の人の袖の香を思
わせてにおつてるのであろうか。

学書に臨書はつきものです。かな

も例にもれず皆さん臨書に熱心です。
原寸が基本と言われますがかなは原

寸で臨書するには少々修練が必要で
す。初めは120%位に拡大したものが
始めるといでしょ。古筆によつ
ては線が交わる部分や結びなど、拡

大しないと解らないものがたくさん
あります。同じ変体がなでも書き方
がかなり異なっています。

一方、かなのリズムについても考
えましょう。連綿しているからといつ
て、ただズルズルと一定の速度で引
くのではなく、メリハリのある運筆
が大切です。このメリハリは転折が
鍵を握ります。ホームページの動画
など是非利用されて下さい。

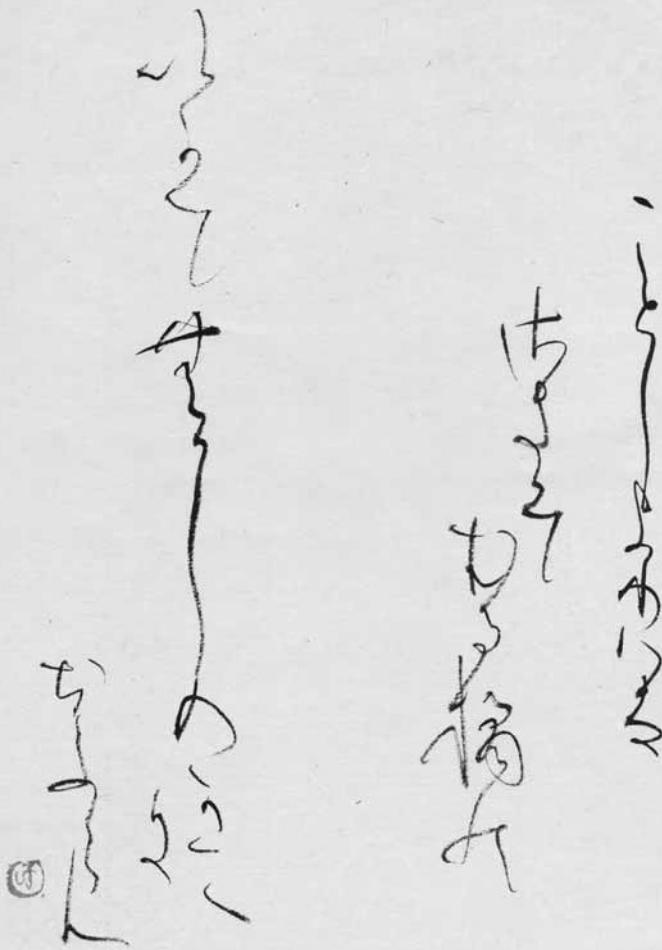
今月は6行で構成してみました。
各自の工夫を期待しています。

よみ方 今年(ことし)より(利)花(八奈)咲(佐)き(支)初(そ)むる橋の(能)

い(以)か(可)で昔(無可)しの香(可)に(一)に(尔)ほ(本)ふらむ(元)

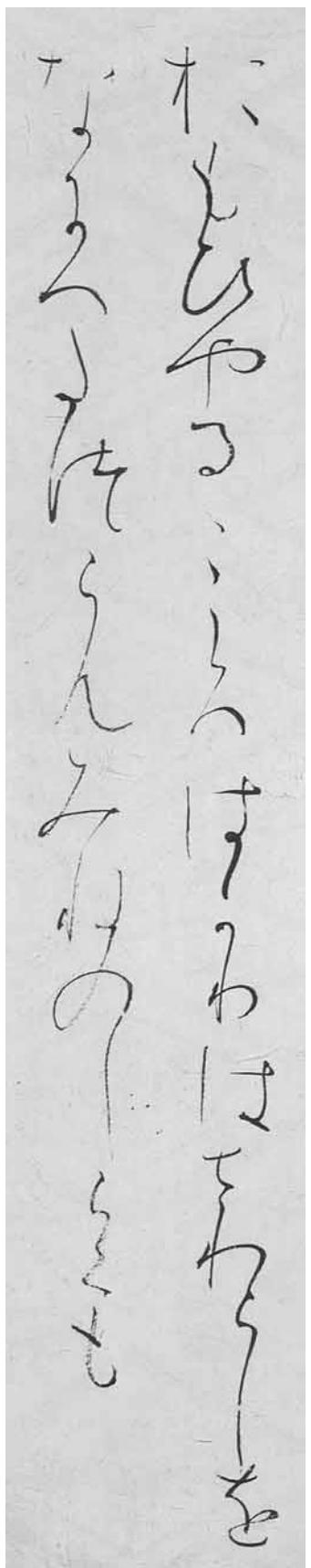
* 料紙は半紙版(33.0×24.5cm)を使用しましょう。半纏紙は上記のサイズに切って下さい。

創作



かな規定 秀級以下【8月15日締めきり】用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$ (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

掲載写眞の和歌を臨書する。部分臨書も可。〈注〉署名は「〇〇臨」。粘葉本和漢朗詠集(掲載写真拡大120%)



よみ方

おもひやるこゝろばかりはさわらじ可利
なにへだつらみねのしらくも

歌意

(私の恋人は山の向こうにいるが) あの人を思う私の心はさえぎられるはずはないのに、どうして峰にかかるあの白雲はふたりの思いを妨害しようとするのでしょうか。

かな条幅規定【8月15日締めきり】用紙 小画仙紙半切(料紙可)

見越雪枝選書

習い方解説

(1)

見 越 雪 枝

山かけの岩間いはまを伝つたふ苔水こけみずの
かすかに我は澄すみ渡わたるかも

(良實)



よみ方

山(やま)かけ(介)の岩間を伝(徒多)ふ苔水の
か(可)す(春)か(可)に(耳)我は(八)澄み(身)渡(わ多)るか(加)も(毛)

*タテ形式に限る

創作

山のかげの岩の間を伝わって、
かすかに苔の下を水が流れるよう
に、ひつそりと私は山かけの庵に
住み続けることであるよ、の意。
典型的な2行書です。美しい流れ
にはかな本来の連綿と氣脈も大切
です。潤滑も必要です。墨継ぎは
「澄」でしています。

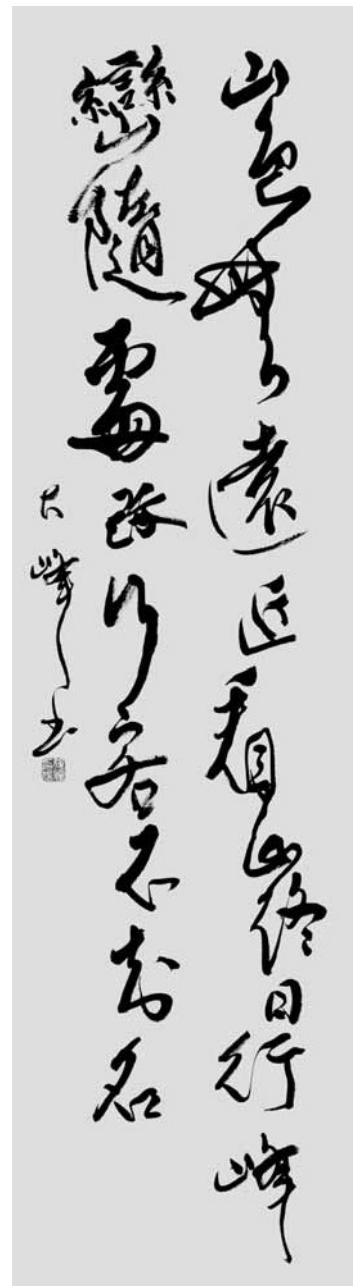
漢字条幅規定 初段以上【8月15日締めきり】用紙 小画仙紙半切

後藤大峰選書

習い方解説 (1)

後藤 大峰

14



昨年に引き続き、今回より3回
担当させて頂きます。今作品は全
体に明清、特に「王鐸」あたりを
基調に文字の大小、長短、潤渴を
意識し書き上げました。行の流れ
等も注意し書作してみて下さい。
大胆に思い切って細部に気を取ら
れずに。

書体=自由

*タテ形式に限る

山色無遠近 看山終日行 峰巒隨處改 行客不知名 (歐陽脩)
(山色遠近無し、山を見て終日行く。峰巒隨處に改まり、行客名を知らず。)

漢字条幅規定 秀級以下【8月15日締めきり】用紙 小画仙紙半切

小林琴水選書

習い方解説 (1)

小林 琴水

「孔子は四十にして惑わずと言
われたが、孟子は四十歳になつた
ら心の動搖を見せないようにした。」

筆に庄をかけ顔真卿風に、書い
てみました。堂々の書風で書いて
下さい。



書体=自由

四十不動心 (孟子)
(四十にして心を動かさず)

北村白琉

雨はふるふる、城ヶ島の磯に、
利休鼠の雨がふる。

雨は真珠か、夜明の霧か、
それともわたしの忍び泣き。

白秋詩「城ヶ島の雨」白琉書

書体=自由

△用紙 ハガキ大(14.8×10cm)の白紙を使用

△黒インクのペンを使用(ボールペン・フェルトペン可)

「注意!! 用紙の大きさにばらつきが見られます。

用紙サイズ(ハガキ大14.8×10cm)を守って下さい。

雨はふるふる、城ヶ島の磯に、
利休鼠の雨がふる。
雨は真珠か、夜明の霧か、
それともわたしの忍び泣き。
白秋詩「城ヶ島の雨」○○書

今月より3ヶ月、ペン字を担当させていただきます。どうぞ宜しくお願い致します。
題材に選んだのは、明治時代を代表する詩人であり歌人、多くの童謡も残した北原白秋の詩です。今月の「城ヶ島の雨」は誰もが口遊んだことがあると思います。穏やかな情緒あふれる詩の雰囲気を損ねないよう」と念じつつ書きました。

5月に芸術院の北関東総局で行われた原拓鑑賞会で、鄭文公下碑の原拓を見せていただき、20年前に雲峰山で実物を目の当たりにした時の感動が蘇り、しばらく臨書に励みました。付け焼き刃では望むべくもありませんが、一生懸命臨書をすることで、ペン字の上達も望めるのではないでしょうが。

令和六年の二十四節気

一月六日 小寒 二十日 大寒

二月四日 立春 十九日 雨水

三月五日 啓蟄 二十日 春分

四月四日 清明 十九日 谷雨

西川 翠嵐

令和六年の二十四節氣
一月六日 小寒 二十日 大寒
三月五日 啓蟄 二十日 春分
四月四日 清明 十九日 谷雨
五月五日 端午 二十日 立夏
六月六日 小暑 二十日 大暑
七月七日 七夕 二十日 立秋
八月八日 白露 二十日 大秋
九月九日 重陽 二十日 立冬
十月十日 小雪 二十日 大雪
十一月十一日 大雪 二十日 立冬
十二月十二日 小寒 二十日 大寒

書体＝自由

- ◇小筆・筆ペン・サインペンなどを使用 署名は各自の姓名(号)を (掲載手本85%に縮小)
◇用紙は普通版半紙横1/2(24.5×16.5cm) B5版コピー用紙(26.0×18.1cm)も可
◇所定の出品券を作品の右下に貼る

今月のホープ作品。各部総評

NO.757



かな条幅部 準師 西川 藤象
軽やかなりズムにのった穏和な
趣きが清楚で、大小のバランスもよ
く整う。もう少し強弱つけても!

◎かな条幅部総評 横形式は文字
の大小や行の取り方が難しいので、
慣れない方は拡大コピーをしてみ
ましょう。墨液は不可。(洋子評)

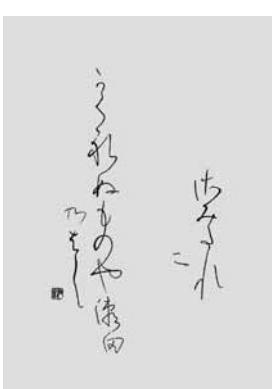
かな部 師範 永井 伯泉
強い線条を生かした散らし書き
です。潤渴のバランスが格調を高
くしている。雅印の位置も佳。
◎かな部総評 俳句の作品なので
余白を大胆に構成したものが多く
見られ作者の高い志を感じました。
今後が楽しみです。

(峰子評)



漢字条幅部 師範 小川 白柳
細太、曲直、潤渴に富んだ線が
躍動し、大小、疎密の変化も加わ
り、生き生きとした熟達の作品。

◎漢字条幅部総評 横作品の構成
を工夫し、創意に溢れた作品が見
られた。行草書作品が多く出品さ
れたが、誤字には注意。(萬城評)



(掃雪評)

現代詩文書部 特選 藤井 花香
「星」の精神的なイメージと淡墨
の滲みが繋がり作品にオーラを放っ
ているように感じます。

◎現代詩文書部総評 書を楽しむ
思いで、そんなひとときを持ち書
作して下さい。



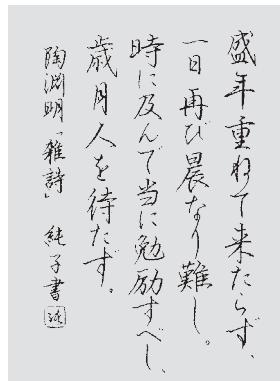
前衛書部 特選 高村 光霞
渴筆と細線のバランスが絶妙。
左右にたっぷりと余白をとり、現
代感覚にあふれたモダンな作。
◎前衛書部総評 小作品の雅印の
大きさ、押印の位置一考を要する
作品が散見された。



(紅瑠評)

漢字部 師範 波多 祥舟
気迫の充満した快作。柔軟性の
ある線条が大河の如く雄大で落款
に至るまで手腕の高さを感じる。
◎漢字部総評 学書の基本は臨書。
線、造形、リズム。広範囲な古典の
なかで座右に置くものを決め身に
付くまでやってほしい。(石雲評)

ペン字部 師範 中原 純子
最後まで氣脈一貫し統一性の保
たれた作。筆勢から生じる波磔が
美しく余韻を響かせ心を打つ。
◎ペン字部総評 高段者は行書が
多く、連綿も美しく調和され楽しく
拝見。字間行間の余白、字体の異なり
に配慮しましょう。(雪枝評)



実用書優秀作品

選評 大平邑峰

◎実用書部総評

力作・努力作が多数出品され、審査は困難を極めた。今回の課題は、月別にまとめる必要があり、特に余白のとり方に留意したい。

(邑峰評)

特選 相澤敦子

何より字形が正確で美しい。行間の配慮も行き届いている。

月の異名・旧暦・夏
4月 卯月(うづき)
孟夏・首夏・正陽
花残り月・更衣月
5月 鞠月(さつき)
仲夏・盛夏・梅天
早苗月・月不見月
6月 水無月(みなづき)
晚夏・季夏・陽水
風待ち月・熱月

相澤 敦子

特選 西川藤象

切れ味の良い線で大胆に書き通し、余白の美しい作品となつた。

月の異名・旧暦・夏
4月 卯月(うづき)
孟夏・首夏・正陽
花残り月・更衣月
5月 鞠月(さつき)
仲夏・盛夏・梅天
早苗月・月不見月
6月 水無月(みなづき)
晚夏・季夏・陽水
風待ち月・熱月

西川藤象

一貫 佳	や椿若石	黎明紅立	紅秀こ	上玉里川	深黎大	八深常も紅瑠	特
木村 大崎 作	ま翠美智	明月精瑠水	こ里	川	黎大	街大盤	相澤
木村 大崎 作	山安鳩丸	松平林千	高坂加藤	今永	飯浅野	水津胡三	西川藤象
聞鉄舟	口本真麻	松田野田木	木井	木澤よし子	百	新村翠芳	千惠藤敦子
聞鉄舟	翁律子	眞砂衣	愛綾莉	白合初	翠音弘美	翠芳代	風象子
蒼陽だ仙	華附澄五	青大生	立誠	亀和松原	うる千葉汀	八深常白四伊	大深珠枝
熊北菊金加	中春月蓮雲大	高立真精和	和松原	竹原	うる千葉汀	街大盤	呂雲大
宏鼓恵智夏	裕朱美良久	郁白甘直俊	幹叙啓	守永浪岡	山行水内	三本藤多本山	丹鈴久木山
竹芳宗(選外)	蘭苑八	大大掃深墨書	幸耕堺福千	水琇小蒼登	水堂玉桝清	西丹鈴	久下
名氏名略	山茂横	比波橋西永	中外利德竹高砂鈴	杉新清佐佐権	藤佐代藤	三浦真尚	英美香
蘭舟和絢佳	木本上山	永川井村山守	守永浪岡	岡木山行	里子樹子	葵美子	香
蘭舟和絢佳	水月生	山田由	守永浪岡	岡木山行	子	龍枝晴	梢奈
蘭舟和絢佳	清紀子	まゆみ	守永浪岡	岡木山行	子	光蘭舟耀	奈華景

前衛書部(特選)

現代詩文書部(特選)



奎和惠美红

媛香弦雪苑

光雅郁成和

媛香弦雪苑

善湖雅子

悠子美香

翔舟真由美

瑞葉真一

博喜代美

雪脱华

祥舟真由美

喜代美

翔舟真由美

喜代美

今月の

特別研究部優秀作品(特選)

選評 下谷洋子 種谷萬城 北村白琉 田村鄭雲

小品の部

現代詩文書 (玄穹) 千葉陽子「万智のうた」

◆美しい滲みの淡墨で墨溜りのアクセントを付け、3つに分けられた空間がそれぞれ表情を醸し出す。細字に幾何学的な文字が散見され趣を削ぐのが残念。

(鄭雲評)



千葉陽子書

35×135cm

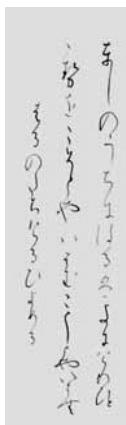
臨書 (蓮紅)

本田美雪「高野切第一種」



本田美雪臨 (前半のみ掲載) 35×136cm

部分拡大



◆第一種の美しい濃淡が鮮やかに表出され、ゆるやかな運筆での奥深い線がしつとりと輝く。一貫したりづくは乱れることなく、王道の古筆を全うした。

(洋子評)

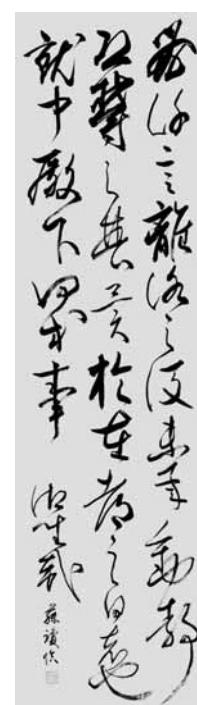
◆原帖の線の表情を着実に捉えて、生き生きとした線に仕上げた。特に細い渴線の軽やかな動きが美しい。感性の高さが窺える上質な臨書。

(萬城評)

臨書 (もくせい)

岡部藤瓊

「佐理書状・離洛帖」



岡部藤瓊臨

135×35cm

前衛 尾河紗香「光の交錯」



124×40cm

◆直線と曲線の象をつなぐ細線がうまく調和し、白も効いた素敵な作品となった。落款の位置は一考してください。

(白琉評)

創作の部(33点)

漢字

かな

前衛

篆刻

漢字

かな

漢字研究部
(佐理書状・離洛帖)

選評 稲垣小燕

今月のホープ作品



相内珠莉



峰佳滋菊藤雅代
雪子筝枝風泉

美桃香雅綠雄
梢翠舟芳水子

恭光祥雅玉美
子葉扇邦泉紬

有理紅俊天舜
津扇雨吾翔水

漢字研究部 特選 相内珠莉

原帖をよく把握し特徴を捉えた見事な臨書です。厚みのある重厚な線。筆先を利かしたシャープな細線と書きあつて紙面を構成し申し分のない作ですが、落款も臨書に相応した仕上がりにしていくことを心がけて下さい。

◎漢字研究部總評

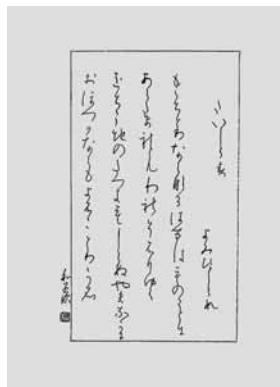
「離洛帖」の筆法、特徴を習得すると多字数作品を創作する時の力となります。臨書す

るに当たっては対象を正確に取り込むことが大事です。今回も出品作の中に無頓着に書かれたものが多数見受けられ残念に思います。まずは書かれた背景を理解し、次に字形、全体の雰囲気をよく観察してから筆を執る。このことは卒意の書を学ぶ上で不可欠なことです。今回の課題を書くにあたっては特にこの姿勢が大事です。

かな研究部
(和泉式部続集切)

選評 庄 司 紅 郷

今月のホープ作品



境野和子

かな研究部 特選 境野和子
高野切第一種の持つ叙情的な美しさ、格調の高さを深く理解し表現出来ています。墨継ぎのポイントも確実に筆を運びました。秀逸な作品です。

○かな研究部總評

潤筆と渴筆の筆の運びは難しいです。スピードを誤ると逆になってしまいます。気をつけましょう。一種のすっきりとした美しさは墨量の調節も大事な要素です。

かな研究部成績表

菊佑澄春文
月朋春汀筆
入
新阿阿上青
井部天利木
坊
運
惠洗啓知
子子草子子
書花橋塲秀書蒼春光大高潮う梓高こ奥泰高華竜竹附高秀土竹大矯正華樹上白琇玉大蕙正渡こA土澄わ澄帝千上花大日田塙
泉祥雅
歐徑風汀彩雲崎音る江崎だ田香崎祥泉原中崎歐向気扇雲韻華祥原泉驚韻阪書華辺だI氣春か春塙葉泉舞雲新無和
鈴杉島嶋椎佐笛佐櫻鶯酒齋齋権小小小小小小吳久國木木菅川河河加金加葛粕乙小荻荻岡大梅生臼字印岩今猪井伊礪石飯安
木田田名々木々田山井藤賀代峰松林木板泉根峰村下野崎岡合納谷藤谷幡棕原田村渕沢原方井東瀬木又上藤貝塙藤
木木美千曾橋千美実由は由
谿祥美記光浩蒼和龍美知杏裕雪加惠し溪泰理豊登美琴幸壽靜一星和順恵雅恵和智礼玉良紀る淳虹美綾楠正祥筆理清悦嘉都美
琳圃佐枝子子自稻子子邑峰屋李厚吉委東潤美翠翠代子代人扇敬子輝芳善子善子蘿風子子祥子乃蘿園東蘿園扇泉子子修

惠幸書祥や玉高春華墨白幕高無橋澄高長橋黎長琇一東幸白上白大書大天や文
選外泉だ扇泉紫ま川崎汀仙祥宣霧明張真門雅春眞月韻弦向扇露泉珠雲泉阪璋ま月
も堺高泉上生恵千や有清澄華紅白
く 真会泉大石葉ま秋月春祥露
181渡吉山山谷矢富御三真松松松樹藤深廣平平原林早畠野野根西名永中中中仲中戸利鶴辻塚田田玉田武高高高春鈴
名邊野本村田口知口野園澤庭村田島尾見原堀瀬山山野澤 坂山村口岸山取井西里込川江部守淵 本村村沢玉山山橋木原本
氏裕 美タ 有さか 美久 み由 ち
名略信代 梅郁 律美登智美智ケ 陽綱翠希香鑑幸だつ莉典奈聖芝正美伯惠星京信吉よ藤佳里洋子え春恵幸哲花い幸昭合慶睦
佳香子京子江枝仙子香舟子風子洗枝子音子香城子子龍袖景子花夫子子華石子源子苑華子心子

審査会員の部 結果発表 (出品数 漢字27点・かな11点)



西川 藤象



佐藤 一義



板橋 雅邦

〈次点・
50音順〉



佐々木 浩子



鈴木 英晴



伊藤 牙城



佐藤 一義



高岡 秀汀



江本 興舟



橋本 紅霞



竹浪 叙舟



奥村 美楓



茂木 純水



永井 明香



北嶋 菁湖

選評 小竹石雲・平川峰子
漢字秀逸作



たおやかで呼吸の長い運筆で引き締
まった線条が明るく伸びやかである。
構えも大きく氣力の充実ぶりが見るも
のに勇気を与えてくれる新鮮な作。
(石雲評)

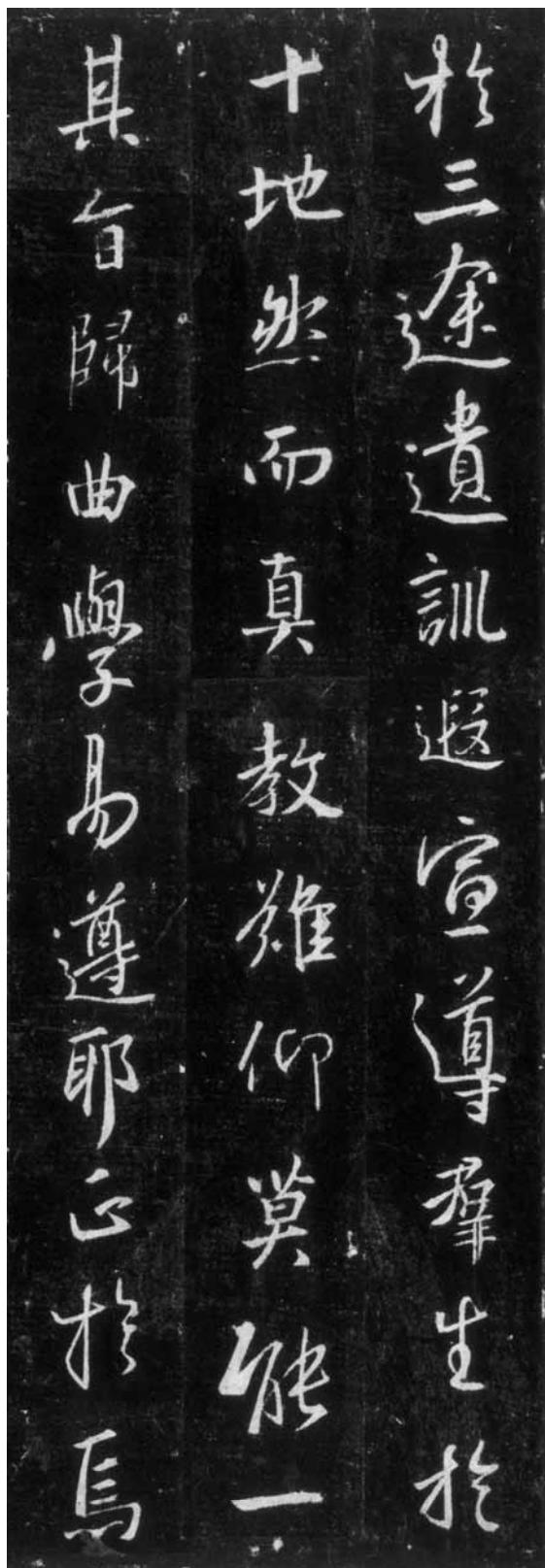
かな秀逸作



かな作品制作の基本がしっかりと押さ
えられています。濃淡の変化線の太細
の変化、散らし書きの余白の変化、強
弱のリズムも完成度が高い作品です。
(峰子評)

〔特別昇段級試験臨書課題〕

※臨書課題は全て、写真掲載部分の中から規定の文字数を臨書する。掲載以外は違反となります。



於三途。遺訓遐宣。導羣生於十地。然而真教難仰。莫能一其旨歸。曲學易遵。耶正於焉。

集字聖教序 (行書)

漢字部

第二種

半紙に写真掲載の中から12文字を臨書

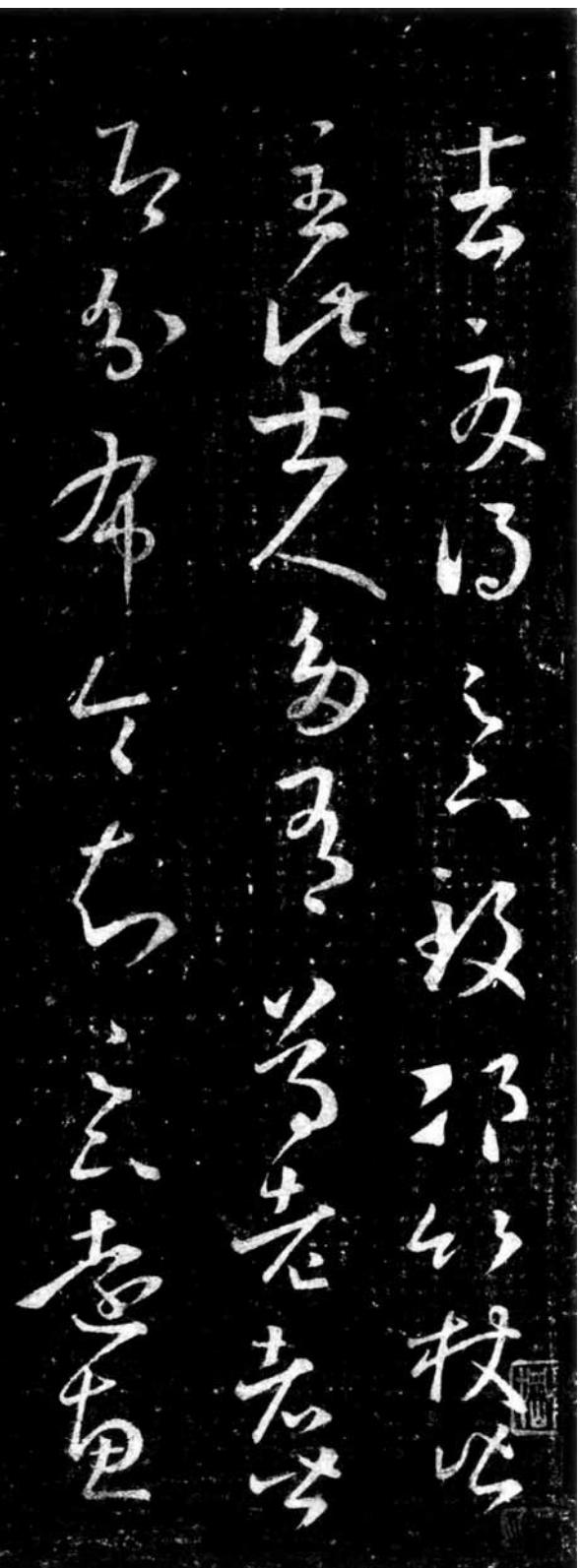
△75%縮小△



△80%縮小▽



所歷之國。總將三藏要文。凡六百五十七部。譯布中夏。宣揚勝業。引慈雲於西極。注



去夏得足下致邛竹杖。皆至。此士人多有尊老者。皆即分布。令知足下遠惠。

顏勤礼碑（楷書）

漢字条幅部

第二種

半切に写真掲載の中から14文字を臨書

△50%縮小▽

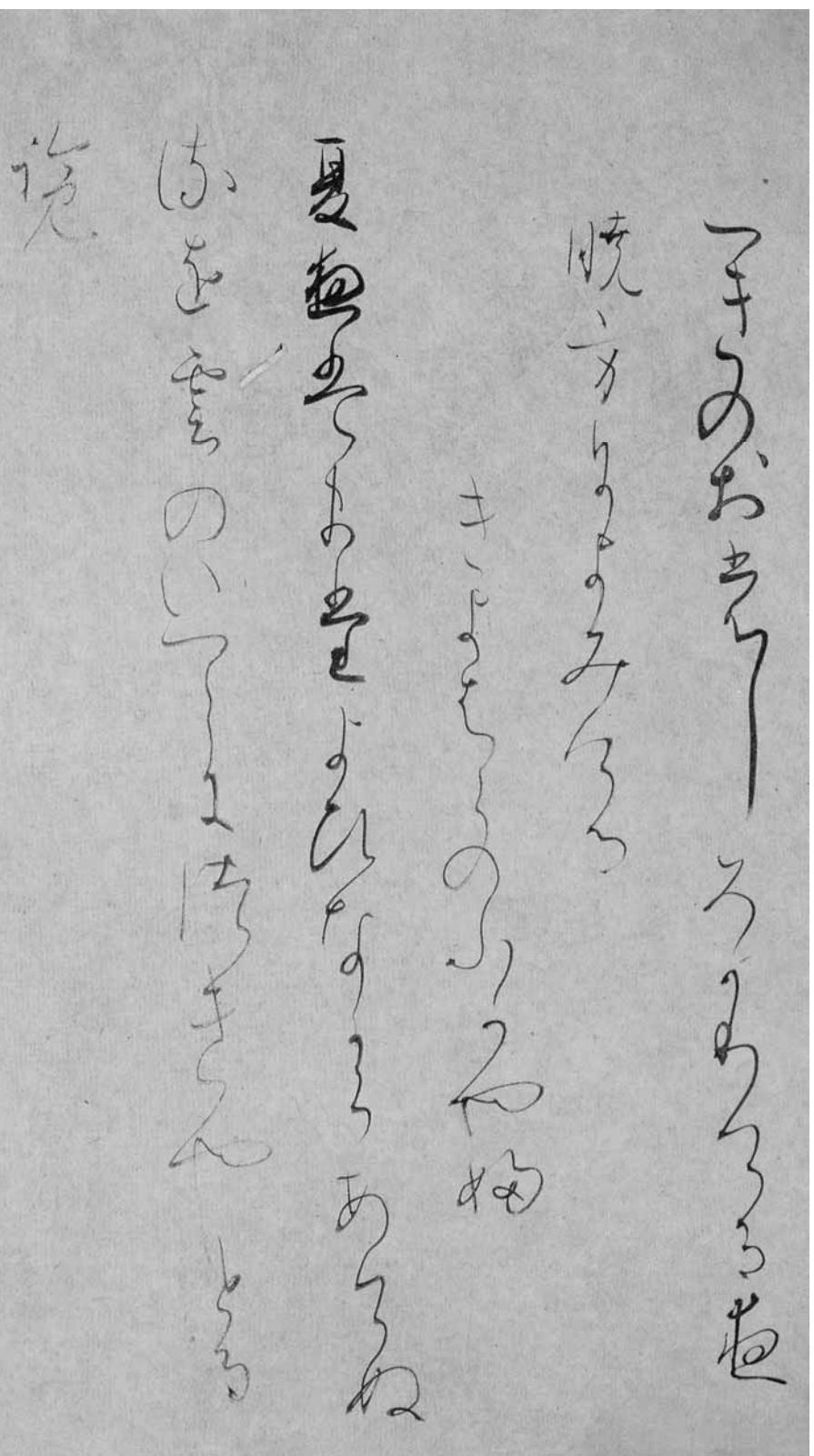


英童女。英童集呼顏郎／是也。更唱和者二十餘

あさ、さこひら、まち
あきかぜにほころびぬらしふぢばか／まつぢりさせてふきりぐすなく
ふゆなれどはるのとなりのちかければ／なかぢきよりぞはなはぢりける

※図版は原寸

※読人や詞書も必ず書くこと。



あをやぎをかたいとによりてう／べひすのぬふてふかさはむめの／花かざ／まがねふく
のなかやまおびに／せるほとせたにがはのおととのさや／けさ／このうたは承和の御べのき
のく／にふる／みまさかやくめのさらやまさら／＼にわがなはたてじよろづ代まで／に耳
／これは眞觀の御べのみまさか可能の／うた

※掲載図版・75%に縮小

〔注〕かな条幅部第三種の臨着課題の範囲は、数年間、この箇所に固定します。

予告

2024・8月号(760)の「古典鑑賞」「古筆鑑賞」の課題

(9月15日締切)

古筆鑑賞

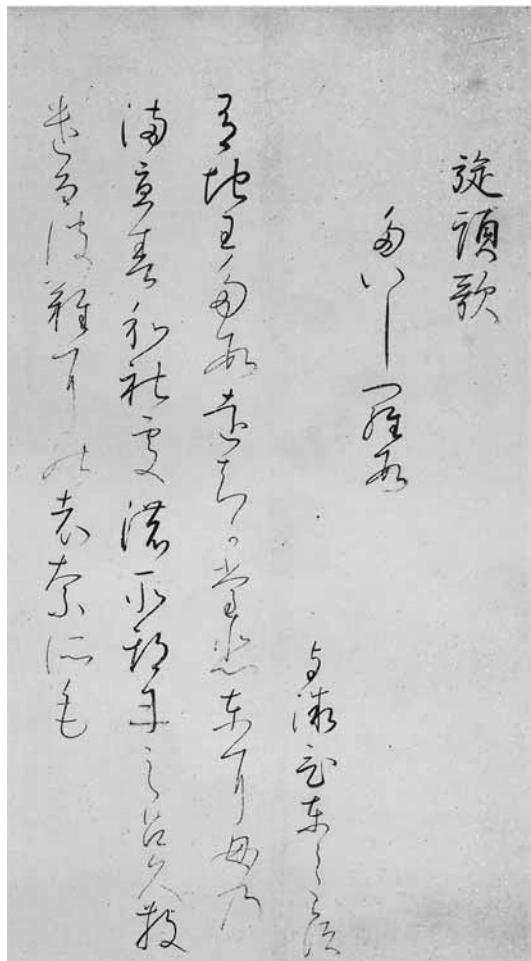
245

高野切第三種 (伝 紀實之筆) ②
きのつらゆき

古典鑑賞

471

がんとうしおぎょうじょ ちょすいりょう
雁塔聖教序(褚遂良) ②



(掲載図版・50%に縮小)

旋頭歌 / だいしらす / よみびとしらす
'うちわたすをちかたびとなもの / ま
うすわれそのそこなしろくさ / けるは
なにのはなぞも

（よみ）



(掲載図版・60%に縮小)

在智猶迷。况乎 / 佛道崇虛。乘幽 /
控寂。弘濟萬品。/ 典御十方。舉威

●篆刻

【8月15日締め切り】

〈出品規定〉

①摹刻 (ア)課題による語句

(イ)原印自由

(出典の際、原印のコピー添付)

②創作 語句自由



7月号 摹刻課題

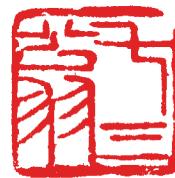
- 印面の大きさは3cm(八分角)以内とし朱文、白文自由。
- 印箋は市販のもの、半紙横1/2の大きさに切ったものも可。
- 応募は①か②のどちらかとする。

757号篆刻優秀作品

選評 後藤大峰

摹刻特選 小沢華仙

「七三翁」



原印観察度
は出書中隨一
の感があり、
運刀は秀でて
いて大変、佳
い。

(摹刻)

大雲 小沢 華仙

秀作 (50音順)
新栄 加藤 万丈

秀作 (50音順)
新栄 加藤 万丈

秀作 (50音順)
新栄 加藤 万丈



「人長壽」

創作特選 加藤万丈

構成の佳さ
が目に付きま
した。余白の
朱が作品を引
き立てた。

◎郵便物・清書・送金・一般事務等は
101-0031 東京都千代田区
東神田1-16-7
東神田プラザビル3階

電話(03)3862-1954
FAX(03)3862-1957
郵便番号
東京都千代田区東神田1-16-7
電話(03)3862-1954
FAX(03)3862-1957
振替 00150-4-135058
ホームページ http://www.lmgs.co.jp/shogei/

今月の注目作

坂本覚山

大雲	片岡	芳琴	石心	新栄
小沢	豪峰	小野寺幸喜	伊藤	加藤
華仙	翠芳	能喜	祥花	万丈
	進			
秀作 (50音順)		新作 (50音順)		秀作 (50音順)

入選 (50音順)	生大	八街	大雲	石心
(選外1名氏名略)	吉原	新村	鷺山	美梢
	能喜	翠芳	櫻空	
		進		
佳作 (50音順)				

入選 (50音順)	石心	新栄
(選外なし)	篠田	加藤
	華所	万丈
	須賀澤	
	一起	

定価 1部 七五〇円

令和六年六月二十五日発行
令和六年七月一日発行

編集兼

下

谷洋子

データ処理

印

刷

行

發

行

所

編

集

兼

下

谷

洋

子

送 料

1か月の購読部数が

1部	79円
2部	95円
3部	103円
4部	119円
5部	135円
6部	151円
7部	167円
8部	183円
9部	199円

10部以上は
送料免除

ご連絡等は
月曜日～金曜日 10時～16時 の間に
お願ひいたします。(土日・祝日は休み)

電話(03)3862-1954
FAX(03)3862-1957

- 用紙の右側に押印し、左側に印影の記文を明記、並びに落款(氏号)を入れる。

○出品方法

昭和五十年一月二十七日第三種郵便物認可
令和六年六月二十五日印 刷 創 行
發 行 日 一 月 一 日

(毎月一回一日発行)

書道芸術

第七五九号